

5

いつまでも健康で おだやかに暮らせるまち

水、大気、土壌環境が良好で、静穏な生活環境が保たれた状態を維持することは、市民の健康で快適な生活を確保するうえで必要不可欠の条件です。

市民アンケートを見ると、空気や川・海のきれいさ、静けさが10年前に比べて劣っていると評価する人の割合が高くなっています。

また、市民会議では、まちの空気や水をきれいにするため、各主体が協働して様々な取り組みを複合的に推進することが重要との意見が挙げられました。

これらのことを踏まえ、本市では、市民が快適に感じる生活環境の構築に向け、生活排水対策の推進や水の供給体制の整備により、きれいで安心して使用できる水環境の保全に努めるとともに、人為的な環境汚染を抑制するための監視体制の強化や、災害などによる環境汚染に備えた体制の充実を図り、いつまでも健康でおだやかに暮らせるまちづくりを推進します。

5

いつまでも健康でおだやかに暮らせるまち

基本施策

5-1 水環境を保全しよう

施策の方向

- 5-1-1 生活排水を適切に処理しよう
- 5-1-2 安心して使える水を供給しよう

基本施策

5-2 快適な生活環境を守ろう

施策の方向

- 5-2-1 環境汚染を抑制しよう
- 5-2-2 危機事象や災害に備えよう

5 いつまでも健康でおだやかに暮らせるまち

5-1 水環境を保全しよう

地域の状況に適した効果的な污水处理施設の整備により、生活排水を適切に処理し、水環境を保全するとともに、水への理解を深めるための啓発活動を継続的に実施することにより、みんなで取り組むきれいな水環境づくりを推進します。また、水道施設の適正な維持管理、計画的な整備により、安心して水が使えるまちづくりを進めます。

5-1-1 生活排水を適切に処理しよう

(1) 下水道の整備

- 下水道事業の健全運営や普及率の向上を目指し、整備効果やコスト縮減に配慮した計画的な整備を推進します。
- 污水处理施設の増設及び改築・更新に合わせて、高度処理方式を導入します。

(2) 合流式下水道の改善

- 合流式下水道緊急改善計画に基づき、雨水滞水池を整備し、合流式下水道からの未処理水の放流回数を削減します。

(3) 合併処理浄化槽の整備と適正な維持管理の推進

- 地域の状況に適した、合併処理浄化槽の設置整備と浄化槽の適正管理を推進します。

5-1-2 安心して使える水を供給しよう

(1) 水道施設の適正な維持管理

- 民間事業者と協働して、効率的で適切な水道施設の維持管理を行います。

(2) 水道施設の計画的な整備

- ライフサイクルコスト¹を考慮した計画的な水道施設の更新を進めるとともに、老朽化した地元共同給水施設の更新を支援します。

(3) 水質の確保

- 飲用水の水質を確保するため、水質試験結果に基づき水道施設設置者に対し、適切な指導を行います。

1 製品や構造物などの費用を、調達・製造～使用～廃棄の段階をトータルして考えたもの。生涯費用の意味。

5-2 快適な生活環境を守ろう

快適な生活環境を守るため、環境保全に係る調査を行うとともに、監視・指導体制を強化します。また、危機事象や災害発生時の環境汚染に対する体制の整備、充実を図り、安心・安全な生活環境づくりを進めます。

5-2-1 環境汚染を抑制しよう

(1) 監視体制の整備

○大気汚染防止法、水質汚濁防止法、騒音規制法など環境保全のための法律の規定により、環境測定による常時監視及び定期的な調査を行うとともに、把握した情報をホームページなどで公開します。

(2) 発生源対策の充実

○環境汚染の発生源と成り得る工場や事業場などに対し、各種法令に基づき立入調査、指導などを実施します。

(3) 事業者と連携した環境保全対策の推進

○環境保全協定を締結した事業者と本市により、環境保全上の目標を設定し、事業者による自主的な環境負荷の低減を目指します。

5-2-2 危機事象や災害に備えよう

(1) 危機事象や災害への対応体制の整備

○水質や大気に係る危機事象ごとにマニュアルを整備するとともに、研修・訓練などを行い職員の危機管理意識の向上を図ります。

(2) 浸水対策の実施

○市内の浸水状況などを勘案し、効果的な浸水対策を行います。
○内水ハザードマップを作成、周知することなどにより、市民の防災意識の向上を図ります。



内水ハザードマップ「情報面」



微生物のちから

「合併処理浄化槽」では、水中の微生物のはたらきを利用して、汚れた水をきれいにしています。それらの微生物には、空気を好む「好気性微生物」と空気がきらいな「嫌気性微生物」がいます。微生物たちは、水中の汚れ（有機物）をエサにして、数をどんどん増やしていきます。浄化槽をうまくはたらかせるためには、微生物たちの特徴に合わせて、元気になるような環境や条件を整えることが大切です。



出典：環境省ホームページ

ミドリムシは、通常の植物では生息できないような高濃度の二酸化炭素環境下でも増殖が可能であり、火力発電所等の約15%程度の濃度の高い二酸化炭素を含む排気ガスの中でも生育が可能であることが分かっています。この特長を活かした実用化技術の試験として、発電所の煙道に配管をつなぎ、その排気ガスをミドリムシの培養槽に通気する実験を行ったところ、7日目程度で増殖が認められ、炭素固定が行われていることが確認されています。微生物については科学的に解明されていないことが多く、今後、微生物が行う生産活動によって副次的に得られる生産物等が環境負荷の低減に大きく貢献する可能性を秘めていると考えられます。

平成24年版環境白書より抜粋



ミドリムシ

出典：平成24年版環境白書